

① 10/7

学籍番号		学年	3	氏名	
------	--	----	---	----	--

・コメント用紙の変更について。

お互いの意見の似ている点・異なる点を見つけるためには項目が分かれている今回のバージョンの方が良いが、自由に思った順番に書いて、斬新なアイデアを出しているという型が障害になっている。メリットとデメリットが表裏一体だと思った。

・シラバスを見て

1つのキーワードに対して1人1人捉え方が異なること、深の方が様々な点があることを感じた。自分が何をすべきか、というところがポイント。

学籍番号		学年	3	氏名	
------	--	----	---	----	--

アラニ先生が授業の始めに「あなたのレンズで見え」と言ったのが気になっていました。何が何となく分からないので、授業の最後までアラニ先生の言う「レンズ」の考えをもっと知って分かるようになりたいと思いました。

授業内容については第4回がとても面白かったと思いました。加えて、旨の意見を聞いていると第14回にも興味が出てきました。確かに、教師になってその後どうなるかを調査したいし、教師教育に限らず、卒業後の縦断的調査はやらねばならないと感じました。大卒だけど、人格形成の観点から見れば、した方がいいと思いました。

学籍番号		学年	3	氏名	
------	--	----	---	----	--

前期に引き続き、答えのある問題を解くのではなく、答えのない課題を考えるため、自分の中で考えを持つこと、他者と交流すること、もう一度自分で考えることというプロセスを大事にしていきたい。知らないことがまだまだたくさんあることを知ることができ、また知りたいたいと思うことができてよかった。

学籍番号		学年	3	氏名	
------	--	----	---	----	--

シラバスの内容を確認する際は、「第14回 教員養成プログラムの実施後の評価」について、検討する時間があったが、その中で一番評価とされているのは、プログラムを受けた学生が教師になれたかどうかがどうかという意見が出た。自分の中にそのような考えが湧いたため、非常に新鮮であった。

前期の演習で学んだ内容を思い出せばから、また学んでいきたいと思う。

ある11-7の生徒の家庭教師をしたことがあった。その子は中学のとき、アメリカの中学に転校した。勉強はついでいけなかったが、それは杞憂だった。向こうの学校では、なんと、「天才」と呼ばれているような子もいる。特に数学がよくて凄い。日本の公立中の定期テストでは80点くらいだったのが、それがアメリカでは天才と判り、向こうの先生からは「ハーバードを目指せ」と言われる。しかも、それが日本の教育では決してない。たまたまのことは、と願っていた。その時、この機会に思い出し、

この背景から、海外のことが見えた。「日本の授業」について興味を抱いた。

。第2回は「教師の成長以外に、どのような目的が教師教育にあるか」が気になった。

また第8回は「共同研究」が「研究者-研究者、研究者-実践者、実践者-実践者」といって行われるのが気になった。

、文化的背景を基に学校を考えるとよくあることかもしれないが、さらに踏み込んで教師教育まで考えるというアイデアは自分にはなかったもので興味深く感じた。また、文化と教師教育を結びつけるために、具体的にどのような手法をとるのが気になった。

学籍番号	学年	3	氏名
------	----	---	----

僕は将来、教師になろうと考えています。僕は高校の頃から考えていたことですが、教員養成の過程には行かず、広く知識を得るために、名大に来ました。この意味で、本当に多くのことを学ぶことが出来ると思います。来年度には、教育実習という実践の機会もあるので、その機会を有意義に果たすことも、この教師発達論を方法学の知識や技能とつなげていきたいと思っています。今期もよく勉強します。